

令和6年度（第2回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年6月26日（水） 14時00分～16時10分
 - 2 開催場所 両荘公民館第1ホール、第2ホール
 - 3 出席委員 大山委員、日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、岸本委員、久保田委員、徳田委員、山尾委員、高橋委員（10名）
 - 4 欠席委員 小倉委員
 - 5 出席職員 小南教育長、松尾教育指導部長、杉本教育指導部次長、尾崎教育指導部参事、井上教育指導部参事、岡本社会教育課長、石坂少年自然の家所長、田中中央図書館副館長、石川加古川公民館長、久保田加古川西公民館長、嶋谷東加古川公民館事業・庶務担当、青山両荘公民館長、河村志方公民館長、小原加古川北公民館長、吉田野口公民館長、福島氷丘公民館長、中田平岡公民館長、大西陵南公民館長、前田別府公民館長、木村尾上公民館長、社会教育課（畑副課長、西森担当副課長、土屋地域教育係長、今井主査、本田主事）
 - 6 傍聴者 1名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）社会教育施設の運営について

（少年自然の家、中央図書館より説明）

委員

少年自然の家の利用者数の状況はどうか。また指導員の現状はどうか。

少年自然の家所長

令和5年度は、天体観測室の使用が大幅に増加した。自然学校等での利用が要因であると考えている。野外活動センターにおいても、コロナが明け、遠足や落ち葉拾いなどでの利用があり、利用者数が増加した。

また指導員については、令和5年度末時点で、野外活動分野が11名、天体観測分野が11名、兼任が7名の29名の指導員が在籍している。定員である35人を満たさない状況となっている。令和6年度に入り3名が増加したが、指導員の高齢化が課題であり、若いスタッフが入ってこれるような募集の仕方を考えていきたいと思っている。

委員

施設があり、指導者がいて、プログラムが充実し、利用が増えるという考え方を持っている。野外活動センターのアドベンチャーコースなどのアスレチックの活用等が考えられるが、施設の現況や充実の検討状況はどうか。

少年自然の家所長

アドベンチャーコースについては、現在15のアスレチックのコースがある。点検する中で、木が痛んでいる箇所があるため、順次修繕を行っている。施設の今後については、大規模改修を行う予定はないため、50年経過する施設において、どのように修繕を行っていくかということが今後の課題となっている。

委員

トイレの洋式化という話もあったが、どこのトイレの洋式化なのか。

少年自然の家所長

宿泊館と工作館のトイレの洋式化を進めていく予定としている。宿泊棟については、簡易のタイプの洋式化となっている。

委員

天体観測宿泊プランについて、新しく、付加価値がついた取り組みであると期待しているが、利用状況はどうか。また、例えば神戸市の自然の家だと、キャンプサイトを再整備して、オートキャンプに使用できたり、一般利用ができるカフェが設置されたり、一般の人にも利用していただける取り組みもされている。いろいろな考え方もあると思うが、一般の人でも気軽に利用できるプランは検討されているのか。

少年自然の家所長

天体観測宿泊プランについては、4月に1件、5月に1件、6月に2件、7月も複数、申請をいただいている。2点目については、神戸市の自然の家は、4月からオープンされている。一般利用と学校利用を大きく差別化した形式とされており、一般利用については、相当の受益者負担を求めているものだと認識している。7月に視察に行く予定としている。

自然の家から野外活動センターに向かう道が課題となっているため、オートキャンプに不向きな状態であると考えている。無料散策日や事業を充実していく方向で検討していきたい。

委員

利用者数がコロナ前に戻ったという良い報告をいただいたので、利用者がまた来たいと思うような事業を検討いただきたい。施設になにかがあるかわかるような広報を取り組んでいただきたい。

資料を見ると市外の利用者数が多いと感じており、市内の方にもっと利用いただけるよう取り組んでいただきたい。

委員

家読の期間が92日間となっており、貸出期間が2週間となっているため、2週間毎に本を読むと、スタンプラリーの冊数に達しない仕組みとなっているが、実際の利用者数はどのくらいいるのか。

中央図書館副館長

貸出時に押印するため、達成可能な仕組みとしている。昨年度は参加者のうち1,654人の方がスタンプラリーを達成された。

- (2) 公民館の主催講座の更なる充実について
(社会教育課より説明)

委員

東加古川公民館の実施した感想はどうか。

東加古川公民館事業・庶務担当

令和5年度より東加古川公民館にて事業を実施している。アンケート結果からも好評いただいている事業であると感じている。事業の実施にあたり、社会教育指導員を2名追加配置するとともに、社会教育課と協力しながら事業を進めていった。今年度についても、昨年度の実績を踏まえて新しいテーマを計画している。

委員

アンケート結果によると、平岡、加古川、野口に住んでいる人が多くなっている。近く

の公民館でしていただけると行きやすいのかなと思う。

委員

各公民館において、いろんな努力をいただいているが、数字を見ると、いずれも減少傾向になっている。元気な高齢者はたくさんいるが、公民館に行かないという状況となっており、多くの方に公民館に来ていただけるように、魅力的な発信をしていく必要があると思う。

町内会などの各種団体も同様な状況であるとともに、全国的な課題であると捉えている。

委員

どうしたら小学生が各施設に行くのかという視点で考えると、行くためには交通手段が必要となるため、市のバスや両荘みらい学園の送迎バスなどを活用して、無料で移動することができれば活動の幅が広がると思う。

委員

本日学校図書館の見学を行ったが、本を借りたり返したりだけではなく、そこで集まった人とコミュニケーションを図るなどの機能を併せもっていることが良いと感じた。また、中学校も給食が開始され、昼休みにゆっくり本を読む時間が無くなっており、課題であると感じている。

公民館については、高齢者が増えてきている中、高齢者大学生は減少しており、課題であると感じている。

委員

高齢者大学生なども減少しており、公民館のいろんな使い方を考えて行かないといけな

いと思う。

委員

公民館魅力発信事業について、参加者はどのような方法で情報を得たのか。また、参加者の方のリピートの声はあったのか。主催講座の広報について、チラシの配布とともにSNSで発信を行うということであったが、どの媒体で広げていくのか。また、投稿に係る編集作業をどこが担っていくのかお伺いしたい。

東加古川公民館事業・庶務担当

広報かこがわ、チラシ、SNS等で発信を行った。チラシの作りやデザインによって反響に変化があったと感じている。情報の入手方法については、SNSもあるが、広報かこがわやチラシをみて来館された方が多かった。

社会教育課副課長

広報については、1事業につき1つのチラシを必ず作っており、東加古川公民館と社会教育課が協力しながら情報が届きやすいような表現も工夫を行った。

教育委員会公式Xにて発信を行っており、子育て世帯とか働いてる世代に届きやすいのではないかと考えている。また、募集だけでなく実施した様子も発信しているところである。こども部のInstagramや市のフェイスブックなどとも連携しながら発信している。

委員

公民館の登録団体が厳しい現状である。登録団体の活動を披露する場がないことが大きな問題になっている。年に1回、発表会・展示会を実施しているが、団体数が減ってくると規模が小さくなってしまい、これまでのように盛大に開催することができなくなっている。より減った場合にどういう形でやっていくか、複数館で合同して開催するなど、登録団体協議会と公民館が連携して、盛大に実施できるように考えていく必要があると思

う。

委員

西宮市において、児童クラブに子育てひろばが併設されており、子育てひろばは20カ所ほどある。保健師さんの紹介で親戚が子育てひろばに行ったが、離乳食の講座などもされていた。加古川市には子育てプラザが2箇所しかなく、加古川市は子供に冷たいまちではないかという声もある。公民館に併設したら、公民館に新しい人が来ることになるのではないかなと思う。

委員

少年自然の家のパンフレットに、ペットを連れてのご利用はご遠慮くださいという表記がある。最近、ペットと泊まれるホテルやペットと一緒に過ごすことができる公共の場所もあるので、検討いただきたい。

委員

社会教育課と東加古川公民館が一緒になって、新しい取り組みが行われており、継続して取り組んでいただき、新しい方にも使用していただきたいと期待している。

特に、東加古川公民館は子育て支援が充実した施設であり、用事がなくても訪れることができる施設となっている。加古川市では、中学校区に1つの公民館が整備されており、これまで地域コミュニティを重視し、各公民館が同じような事業を実施してきたように思う。公民館の統計の数字は、部屋を使用した人の数が計上されており、東加古川公民館においては、数字以上の人が公民館に来ているのだと推察しており、数字だけでは見えないところもあると考えている。公民館では、自習室の取り組みもされているが、人数に計上されない。用事がなくても行けるような仕掛けを行い、多くの方にとって居心地のいい居場所になればと思う。

高齢者大学の在籍者数が大きく減少しているが、高齢者のニーズが変わってきていると感じている。40数年前に始まった高齢者大学の意義がかけ離れてしまっているのではないかなと思う。公民館魅力発信事業で取り組まれているような教養講座で、高齢者だけでなく一般の方を対象とした講座で、専門的な内容でシリーズ化して実施するのも良いのではないかなと思う。高齢者大学のあり方について見直す時期に来ているのではないかなと考えるが、検討状況はどうか。

登録団体について、メンバーの固定化や高齢化、協議会の役員の負担など今の時代に合わなくなっている部分もあると思う。カルチャーセンターとは異なるという議論もあるが、教室をしたいという先生が利用できるような形式を考えても良いのではないかなと思う。社会教育施設ということも踏まえて議論する必要があるが、利用人数だけではなく、制度や仕組みの見直しも必要であると考えている。

社会教育課副課長

高齢者大学の検討状況について、年数などのあり方について検討を行っている。令和6年度の人数が好転しており、今年度は動向を見守っているという状況である。

委員

加古川市には、兵庫県が実施しているいなみ野学園があるが、加古川市の高齢者大学との連携や関連はあるのか。

社会教育課副課長

現在のところ、連携は特にないが、市の高齢者大学を卒業された方が、学びを深めるためにいなみ野学園に入学されていることもあるようである。

委員

コロナにより無くなってしまった講座もあると思うので、講師の方に声かけていただい

て、復活していただけたらと思う。

両荘みらい学園学校図書館では、中央図書館の本を予約することができる。各公民館でも図書館の本を予約することができれば良いと思う。

社会教育課担当副課長

両荘みらい学園学校図書館は、中央図書館の館外サービスポイントとして設置しており、週に1度回送便を運行している。回送便に係る費用が課題であるが、両荘みらい学園学校図書館の効果を踏まえながら、中央図書館と共に検討していきたいと思う。

(報告事項)

(1) 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について

(2) 東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会総会・研修会の参加報告について

(その他)

○ 閉会 16時10分

副委員長あいさつ

以 上